

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第17週 (4/24-4/30) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		17週	16週	15週	14週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	4	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	4/24-4/30	4/17-4/23	4/10-4/16	4/3-4/9	4/17-4/23
			17週	16週	15週	14週	16週
小児科	RSウイルス感染症	○	4 0.22	3 0.17	3 0.17	3 0.17	25 0.19
	咽頭結膜熱		2 0.11	3 0.17	1 0.06	2 0.11	38 0.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	54 3.00	55 3.06	56 3.11	42 2.33	449 3.33
	感染性胃腸炎	↓	154 8.56	158 8.78	144 8.00	153 8.50	951 7.04
	水痘		5 0.28	4 0.22	2 0.11	4 0.22	35 0.26
	手足口病		4 0.22	0 0.00	1 0.06	0 0.00	9 0.07
	伝染性紅斑		2 0.11	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.03
	突発性発しん		11 0.61	17 0.94	13 0.72	6 0.33	73 0.54
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	ヘルパンギーナ		2 0.11	1 0.06	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	流行性耳下腺炎		3 0.17	5 0.28	2 0.11	1 0.06	40 0.30
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		89 3.18	148 5.29	142 5.07	130 4.64	1,159 5.39
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.25	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.25	0 0.00	2 0.40	3 0.60	27 0.77
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	9 1.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	IGRA検査等	結核	男性	70歳代	画像診断等
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	結核	男性	80歳代	IGRA検査等
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	結核	女性	70歳代	IGRA検査等
結核	男性	60歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	男性	60歳代	病原体の検出		男性	80歳代	菌の検出、薬剤耐性の確認及び原因菌の判定
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出

・第17週は、結核9件(80)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(4)、梅毒1件(13)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

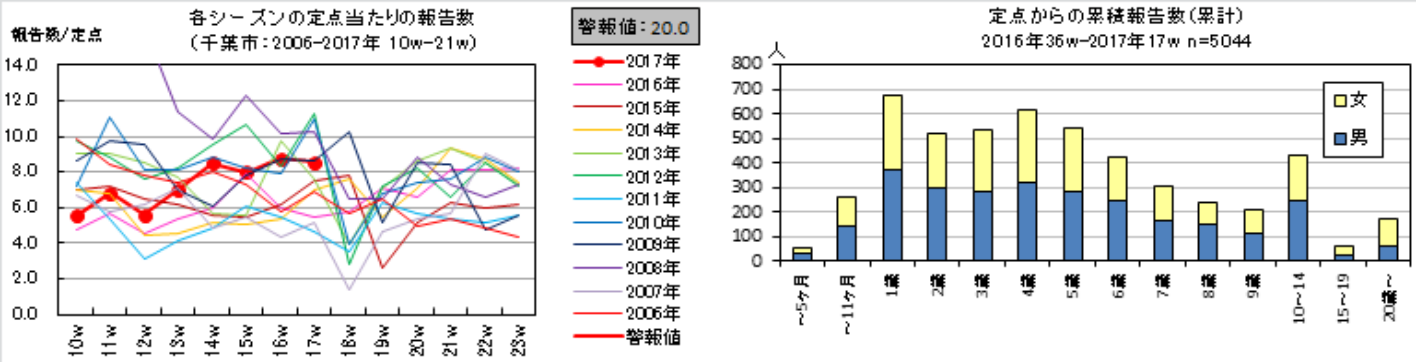
定点当たり報告数 第17週のコメント

- ＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より若干減少し3.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- ＜感染性胃腸炎＞前週より減少し8.56となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

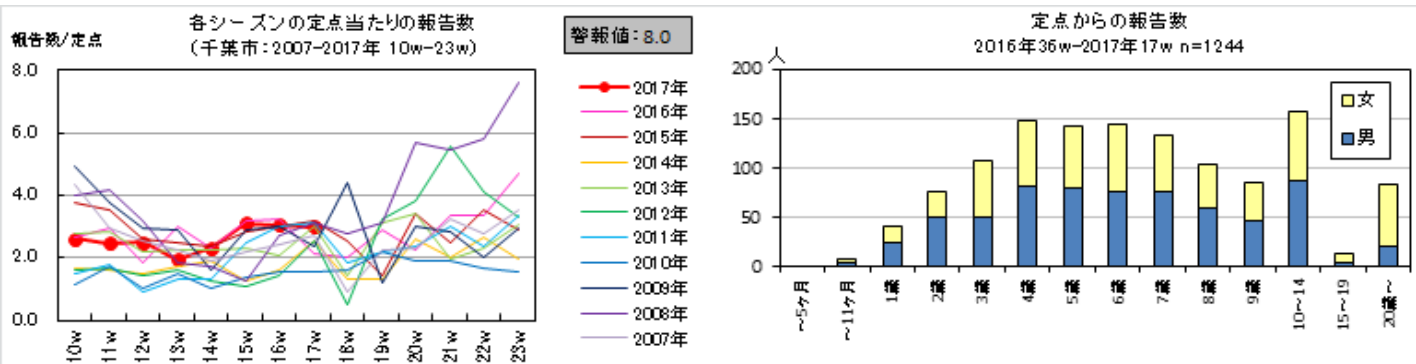
＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの2017年第16週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、石川県、宮崎県、福井県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干多めとなっています。千葉市の2017年第17週は前週よりやや減少し8.56となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(25.0/定点)で流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を上回って最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では一昨年から連続して高い水準のままとなっています。今シーズンである2016年第36週から2017年第17週までの累積報告数(n=5044)によると、性別では男性が54.1%(2727名)、女性が45.9%(2317名)で、年齢階級別では1歳(13.4%:676名)、4歳(12.2%:617名)、5歳(10.8%:543名)の順に多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの2017年第16週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、鳥取県、北海道で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第17週は前週より減少し3.00となりましたが、過去10年の同時期と比べると依然として多いためとなっています。区別の発生状況は、緑区(5.75/定点)で最も多く、同区の6歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。例年の発生動向では今後増加する傾向にあります。今シーズンである2016年第36週から2017年第17週までの累積報告数(n=1244)によると、性別では男性が53.5%(665名)、女性が46.5%(579名)で、年齢階級別では10歳代前半(12.7%:158名)が最も多く、一年代あたりでは4歳(12.0%:149名)、6歳(11.7%:145名)、5歳(11.4%:142名)、の順に多くなっています。



＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの2017年第16週は過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、沖縄県、奈良県、鹿児島県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市では2017年第13週から増加傾向にあり、第17週は前週より増加し0.22となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区と美浜区(共に0.5/定点)で発生報告があり、緑区で6か月から11か月、美浜区で1歳未満での発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第17週までの累積報告数(n=202)によると、性別では男性が55.9%(113名)、女性が44.1%(89名)で、年齢階級別では1歳(35.1%:71名)、6か月～11か月(28.2%:57名)、0か月～5か月(21.3%:43名)の順に多くなっています。

